

歯周内科治療症例集		症例番号 3
初診年月日 :	2005年 3 月23 日	
患者 (イニシャル可) :	YS 48 歳 女性	
主 訴 :	左下奥歯の違和感 検診希望	
現病歴 :	1週間ほど前から左下の奥歯に違和感を覚え、精査目的にて来院	
既往歴 :	貧血	
特記事項 :	なし	
口腔内所見 :	上顎前歯部に歯肉の腫脹がみられる	
投薬前位相差顕微鏡 検査所見	カンジダ様像、スピロヘータ、運動性桿菌が認められる	
レントゲン所見:	修復物多い 欠損部位にBrの装着を認める	
原因的事項および修飾的因子 :	歯列不正、補綴物によるブラッシング不良	
診断名	慢性歯周病、上顎前歯部のP急発、左下臼歯の外傷性咬合	
歯周内科治療方法	AZMおよびペリオバスターによる2剤併用類似療法	
投薬後位相差顕微鏡 検査所見	滑落上皮を認める 歯周病関連菌は観察されない	
メンテナンス時位相差 顕微鏡検査所見	滑落上皮を認める 歯周病関連菌は観察されない	
治療経過 (箇条書き)	<p>2005年3月23日 初診。検診希望にて位相差顕微鏡検査、パノラマX線写真検査を行う。上記診断名より、AZM(アジスロマイシン)処方。同時にカンジダに対して歯磨き指導(ペリオバスター使用)。(症例3口腔内写真、位相差顕微鏡検査、歯周精密検査結果参照)</p> <p>4月8日 位相差顕微鏡検査、スケーリング開始。(位相差顕微鏡検査結果、歯周精密検査参照)</p> <p>4月22日 スケーリング</p> <p>6月24日 スケーリング</p> <p>8月19日 スケーリング</p> <p>9月13日 P継続</p> <p>10月25日 P総診 以後P総診</p> <p>2006年6月6日 右上第二大臼歯治療開始。ゴールドクラウン希望。</p> <p>10月31日 上顎前歯部にホワイトコート希望</p> <p>2007年3月30日 右下臼歯部治療開始。ハイブリッドクラウン希望。</p> <p>7月24日 左下第3大臼歯治療開始。ゴールドクラウン希望。</p> <p>2008年6月20日 右上上顎側切歯治療開始。メタルボンド希望。</p> <p>以後3ヶ月に一回の保険によるスケーリングを行った。 2005年10月25日現在の口腔内写真、パノラマX線写真、歯周精密検査結果、位相差顕微鏡検査結果参照)</p>	
まとめと今後の対応	<p>歯周内科、2剤併用療法の類似療法で効果が見られた症例。上顎切歯部の歯肉の腫脹が術後改善されている。歯肉の色も経時的に健康的になり、補綴物などが気になり始めたため、自費の白い歯を希望された。類似療法で使用したペリオバスターは現在も使用し続けており、口腔内は菌叢を含め綺麗に管理されている。歯周内科から自費の補綴に移行できた症例である。</p>	